

「ことば」と「ヒト」と「心理学」

株式会社Z会高校事業部教材開発1課 国語担当

園田美理 (そのだ みさと)

「ことば」と「ヒト」——この二つは学生時代に私が最も関心をもち、研究のテーマとしていたものです。今、私はZ会で教材編集の仕事に就いています。まだ社会人1年目の半人前ですが、社会人、そして国語の編集者として、上記の二つは大切にしているものであり、心理学と今の仕事を結びつけてくれているものだと感じています。

私の卒業論文のテーマは「表情認知と単語認知の関わり」でした。この研究を通して、私は「ことばの奥深さと大切さ」を再確認することができました。例えば、同じネガティブな意味をもつ単語でも「最悪」と「さいあく」では、文字の処理に要する時間も受ける印象も異なります。また「幸運」と「元気」のように、ともに漢字で書かれた似た意味をもつ単語も、総画数が異なれば処理にかかる時間は異なります。

このように、ことばはちょっとした違いによって、その処理速度や他者に与える印象が異なるものです。私は国語の教材をつくる際、一つひとつの表現にこだわって、どのようにすれば受験生にとってより読みやすく、理解しやすい教材になるかを常に考えています。これは国語の編集者であり、かつ心理学を学んだ者のこだわりだと思います。

文字化された「ことば」だけでなく、口頭の「ことば」にも同じ

ように気を配っています。今、私は教材編集の仕事以外に、社内の学習塾で高校3年生に国語の個別指導もしています。指導の際には、生徒が理解しやすいようにわかりやすく話すこと、また一方的にただ説明するのではなく、生徒が質問しやすい雰囲気をつくることを心掛けています。教材編集が主な仕事ではありますが、いつもデスクに向かって教材をつくっているわけではありません。社内の方はもちろん、社外の方と接する機会もあります。そのため、仕事全般を通して、「ことば」と「ヒト」は不可欠なものといえると思います。

社会人として必要なのは「他者を大切にす気持ち」。この場合の他者とは、お客さまはもちろん、社内の方や取引先の方も含まれます。他者に関心をもち、気を配ることから円滑なコミュニケーションははじまると私は考えています。そして国語の編集者に必要なのは、やはり「ことばを大切にす気持ち」です。この二つの大切さを私に教えてくれたのは心理学だと思っています。

私は元々ヒトに興味があり、そのヒトへの関心から心理学を専攻することを決めました。認知心理学を学ぶことで、ヒトの認知のおもしろさを学び、そこからさらに

Profile — 園田美理

2010年、九州大学文学部人文学科卒業。同年、株式会社Z会に入社。Z会では高校事業部教材開発1課にて、国語の教材編集・制作を担当。学部のとときの専攻は認知心理学。



教材は、「がんばり」と「こだわり」の結晶です

ヒトへの関心が深まりました。また、ことばの認知を研究テーマとしたことで、ことばの奥深さを学ぶことができました。研究内容が直接今の仕事にかかわっているわけではありませんが、「ヒト」に関心をもち、「ことば」を大切にしながら教材をつくっている毎日を振り返ってみると、大学で心理学を専攻したことが今日の自分に強い影響を与えているように思えます。

今後も「ことば」と「ヒト」を大切にす気持ちは忘れることなく、教材をつくっていきたいです。そして、「ことば」と「ヒト」にかかわる今の仕事を通して、「心理学」とこれからもずっとつながってほしいと思います。